



NPO☆Kyoken通信

特定非営利活動法人教育研究所発行115号 平成26年7月8日発行

本部 〒233-0013 横浜市港南区丸山台2-26-20 宇奈月自立塾 〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉5509-16

TEL: 045-848-3761/FAX: 045-848-3742
URL: <http://kyoken.org/>

TEL: 0765-62-9681/ FAX: 0765-62-1120
E-mail: contact@kyoken.org

にいかわサポートステーション 〒938-0037 富山県黒部市新牧野103 ファーストビル3F

TEL: 0765-57-2446/FAX: 0765-57-2447

mail: info@niikawasaposute.org

ひきこもりの長期化と高年齢化

～事態は深刻化する～

ひきこもり人口推定 74 万人、日本で単純労働をする外国人労働者 74 万人、海外で働く日本人 150 万人。ひきこもりは 10 代から 50 代ひきこもりの人の年齢幅も拡がり平均年齢も 38 歳になったと、KHJ 全国親の会は厚生労働省の調査研究予算を使い昨年度調べて結果わかりました。

ひきこもり期間も長期化し、調査対象者の約 10%が 20 年以上のひきこもりになっています。その結果、ひきこもり当事者の高年齢化とその保護者である親も同時に高年齢化し、親の年金で暮らすため、生活困窮家庭も増えて来ています。また、ひきこもり当事者は将来、生活困窮者あるいは生活保護者に陥る可能性もあり、1000 兆円の負債を抱える国にとっては、これ以上、保護家庭を増やすわけにはいかない事情も抱えています。

それらの影響もあり、内閣府や厚生労働省のひきこもりに対する行政の動きが本格化して来ています。

その一環として、内閣府の行うアウトリーチ事業や厚生労働省のピアサポート事業の調査研究が始まり、ひきこもりに対する支援事業も一部法制化が進んで来ていると同時に、ようやく動き始めました。それは地方自治体にも影響を与え、県などで取り組む研修も活発になって来ています。

その先駆的始まりの一つに香川県の取組があり、先日、講師に行きました。

高松市市民活動センター、香川県ひきこもりサポーター養成事業案内

<http://www.flat-takamatsu.net/bcs/info1467.html>

山本ひろし参議院議員、財務政務次官、報告

http://www.yamamoto-hiroshi.net/archives/2014/06/1_62.html

※ 研修を有意義に行うため、研修に先立ち、主催者がアンケートを参加者にとりました。

様々な角度から専門家が質を寄せて来られました。その中で、読者の方にも参考になると思い掲載します。

・質問は全部で20問ありましたが、参考になるものだけを紹介します。(回答者：牟田 武生)

Q1 本人に面会しようと思っても、本人が拒否している時の対応

A1 アウトリーチやピアサポートの基本は本人が望んでいる時です。しかし、ほとんどのひきこもりの人は、他人との交わり拒否しているからひきこもりの状態なのです。まずは親子関係の改善からはじめないとどうにもなりません。

そこで参考になるのは、KHJ 親の会オリーブの会(香川県)143回月例会「父親の集い」です。

・元当事者の意見

「父親は子どもに〇〇でなければならないという考えを押し付けがちだ」

「先回りの発言が多い」「子どもの話を聴いてくれない」

「自分は親とは違うということを理解してもらえない」

「自分は家庭ではいつも危機意識を持っていた」等々

・父親の意見

「〇〇でなければとか押し付けはしたつもりはない」「何とかしてやりたいという思い」等々
ボタンの掛け違いがあります。さらに、本人は親に喰わせてやってもらっているという潜在意識が劣等感を刺激し、自分を守るために過剰防衛反応を示します。場合によっては家庭内暴力に発展する可能性があります。

そのためには、親の価値観の変更が必要(時代の変化)→受容(子どもの気持ちを理解する)→そして、すべてのことは親だけではできない(叶えられない)→理解してくれる仲間(ピア)や専門性のある(アウトリーチ)が、来てくれることを伝える。本人自身が困っていることを解決してくれる人なら来て欲しいと願っている。

Q2 家族から相談があるが、なかなか本人につながるできない

A2 家族からの相談で本人につながる事が最終目的ではない。最終目的はひきこもり状態の改善であり、ひきこもりから当事者が抜け出すことにある。そして、本人が望めば、本人自身の相談や家庭訪問もその過程で行われるという通過点に過ぎない。

大切なのは、遠隔操作、相談者(親)を通してどう関係を改善するか?

親と子のボタンの掛け違いをどう修正するか?

そのためには本人の気持ちをどう理解するか、そして、見方になってあげられるのか。

- ① 家族の苦しみを理解し、援助者としての信頼関係の形成
- ② 見立て(何をどう支援していったらよいか、連携する関係機関は…等)
- ③ 細かい本人の動き等の報告・連絡・相談指示を行う(ひとりよがりにならないためにスーパーバイズ者が必要) 介入時期や信頼関係を深め、必要な情報の提供
- ④ 精神的な治療対応は拒否される場合が多いが、健康診断などは受け入れる場合が多い
- ⑤ 本人の感情や行動を変化させ、ひきこもりの状況からの改善

Q3 どのような状態をもって、ひきこもりから回復したと言えるか

A3 以下の3つの項目が改善されたかどうかを目安にする

- ① 日常生活の管理が自分自身でできるか

- ・生活リズム
- ・衣食の管理
- ・精神的な揺れを自分自身で管理できるか
- ②他人との人間関係に緊張や不安など特別なストレスを感じないか
 - ・拒否や逃避したい感情をコントロールできるか
 - ・他人との会話中、必要以上に緊張や不安がない
 - ・会話内容をしっかり把握できるか
 - ・報告・連絡・相談ができるか
- ③経済的に自立のメドが立ったか
 - ・就職活動や労働訓練に自分自身で参加できるか
 - ・生活費の目処が立ち始めたか
 - ・国民健康保険、税金等、社会的な手続きができ、自分自身で納めることができるか

Q4 学校に馴染みにくい、不登校の子どもの心理に興味、関心があった

A4 今日の不登校のタイプは6つに大別できるが、いくつかの複合的な要因も絡みあっていることが多い、また、タイプによって対応や支援のありかたは違ってくる。

①不登校は学力面

②人間関係でのストレス

ストレスから自立神経失調状態が起き、身体症状（頭痛・腹痛・発熱・嘔吐等）から登校できなくなり、必要以上に級友からどう見られているか気になり、外出困難になる（心因性タイプ）

③無気力（アパシー型）

本業（学校に行く、勉強する、働く）以外のことは、普通の人と変わりなく過ごせる。

最近では、働こうとするとうつ状態になり、趣味や好きなことをやっていると元気なタイプも現れている。

④怠学

⑤意図的

⑥その他（いじめや教師の体罰など）

Q5 歴史的な経緯について、ひきこもりがいつ頃から確認されているのか。戦前？高度経済成長期

A5 ひきこもりに関する調査研究がはじまったのは極めて最近のこと。それまでは社会問題化されなかった。なぜ、社会問題化されなかったのか？高度経済成長に入る50年前は第一次産業や自営業者の割合が多く、さらに、人間関係が上手く行かない発達障害傾向のある人も、人間的には無愛想だが、腕は確かで良い物を作るという職人文化があり、それらの人を吸収していたと考えられる。

高度経済社会は会社社会（管理社会）でもあり学歴社会にもなった。学校卒業→一括会社雇用（終身雇用・年功序列）→グローバル社会（格差社会）デフレスパイラル・リーマンショック→若者の多くが非正規社員（以前のセフティネットの崩壊・厚生年金・労働保険に入れない若者も存在）

80年代前半、心因的不登校の出現、成績が優秀でいい子が、頑張り過ぎ、緊張や不安が強くなり、挫折感とともに不登校（当時は登校拒否）になり、そのまま、ひきこもる（当時は閉じこもりといった）生徒が多くなった。それらの生徒は現在40代後半になっている。

これからの「いいサポ」

牟田 光生

にいかわサポートステーション（以下サポステ）設置から1年が経過して、日々のプログラムや支援体制も整備されてきたと感じます。だが、予算的なことをいえば、前年度に比べ、約半分カットになってしまい、昨年程の実績を築くことは非常に困難な状況です。その影響もありスタッフの再編もあり苦渋が続いています。

日本の為、同世代含めた若者の為に尽力していこうと思います。気持ちだけは負けずに、踏まれても、踏まれても咲くタンポポのようでありたいと自分自身では思っています。

● サポステ利用者と入塾生の違い

サポステを運営する以前、自立塾の入塾生に一部は、他のサポステからの紹介があり、受け入れを行っていました。その塾生達は、心理面でのフォローが非常に多く、状態があまり良くない難しい重篤なケースが多かったのです。

「何故だろうか?」「有料だからか?」と思っていました。

サポステ事業を昨年度から、実際に行って感じたことは、重篤な事例は10人に1、2人位の割合で決して多くないことでした。重篤な事例の場合、関係の構築・カウンセリングなど、時間がどうしてもかかっていますが、サポステ利用者の多くの場合は、心理面のフォローよりプログラムで対応出来る若者が多い、ためにサポステで十分対応できるから、塾への紹介に繋がらなかったのではないかと考えられるようになってきました。しかしサポステだけで全面的に対応出来るか?といえ、そこに留まってしまい改善されない人も出てきます。例えば、就労体験はできるけれど、いざ働くとなると…動けない若者もいます。

働くということは、人間関係も含め、体力・コミュニケーション能力も含め、自分自身で主体的に動かないと働くことはできないということではないかと再度理解ができました。

● キカクル

今、サポステでは毎週火曜日週1回「キカクル」というプログラムを行っています。

各地元企業・TV局見学や遠足的なものやお楽しみ企画等、様々にバラエティに富んでいます。それを行って「どう就労に結びつくのか?」「遊んでいるだけではないのか?」と、思われがちですが、参加者同士で意見を出し合い、どうするかを決め、企画案を練り、参加者を募集し計画を実行する。

実行中には、仲間と楽しめたり、緊張なく他人とコミュニケーションがとれたり、その行事のたびに、参加者各々の反省や修正し、さらに良いものを作りあげていくことが大切であることがわかります。それらは今後の自立（働く）することに生かすことができるとスタッフ一同考えています。

学生時代に生徒会やサークル、部活の主導的立場にいた人ならば体験するでしょうが、社会で働く場合、こういったことが、学校の成績より重要だということが大人になって、皆必要だったと感じて来ているようです。

● 中間的就労

サポステの事業者間や生活困窮者の支援事業の中で「中間的就労」という言葉があります。その中には、就労体験なども入ります。それらを一步進めた形で、今後、皆で企画計画を練りながら中間的就労（会社）を立ち上げていきたいと考えています。もちろん、一緒に働く者には、賃金も発生します。皆で考え、助け合い、議論しあい、企画計画し、それらがまとまり大きな力となり、少しずつ実行に移し、未来の自分を、そして未来の日本を築いていきたいと思っています。皆さま方のお力を借りる事にもしかしたらなるかもしれませんが、今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

若者との合宿生活を通じて

宇奈月自立塾 スタッフ 榎本 隆志

～新入スタッフの奮闘記①～

今年 36 歳になります。大学を卒業し、大手外食産業で働き、その後、自営業をしていました。大学時代の友人の寮長に誘われ、この世界に入ってきました。特殊な世界である仕事ですが、そのため知識は殆んどなく、宇奈月自立塾に来た当初は仕事のやり方、この世界のルール、寮生とどのように接したらいいのかなど、多くの不安がありました。

新しく入塾される寮生と殆んど同じ時期にこちらに来ましたので、その人たちと同じようゼロからのスタート。ここでは新人なので知らないことは、以前から居られる寮生に教えてもらうという気持ちでこちらでの仕事を始めました。昔からこのような気持ちで、仕事を最初スタートさせていたので、違和感なくスムーズに寮、そして以前からいられた寮生と馴染むことが出来ました。

こちらでの仕事に関しましては、殆んど寮生と同じような行動をしています。私も生活のリズムを変えるところから始まり、研修、運動、同じ様な生活をする事で他の寮生と同じ視点で物事が見られ、皆がどのように感じているか多少気持ちの共有ができています。

正直ここでの最初の 1 カ月間は、仕事のオン・オフの切り替えをどこでするのが非常に難しく、殆んどオン状態であった為、かなり体力の消耗が激しかったです。そんな時、理事長が顧問をしている高卒認定の問題集を出版している会社が行っている留学支援の視察と研修を兼ね、約 1 週間ニュージーランドに行き、最高の気分転換ができました。

その後は基本的に 1 日の事務作業をする時は時間を自分の中で決め、その時間内で仕事をするよう心掛けています。しかし、寮生の相談は随時受けています。現在はこれにより少しはオン・オフの切り替えができてきました。

寮での生活はスタッフ、寮生と色々話をする時間が多くあるので、自分の知らないこと、その人の考え方、やり方など様々なことをする機会が多くあり、新しい発見など大変勉強になる日が続いております。様々な年齢の方と会話することで、自分も成長することが出来るので日々楽しく生活を送ることが出来ています。

今後も毎日勉強の気持ちを忘れず、様々なことに興味を持って生活していきたいと考えています。

合宿生活と若者の意識変化について

～新入スタッフの奮闘記②～

私が宇奈月自立塾のスタッフとして来たのが、4月からで、4月に4名、6月に1名、現在5名の寮生を寮で見て感じたことを中心に書かせて頂きます。

寮生活の良いところは朝の起床、3食の食事、入浴そして就寝と、一般人が普段している基本的な生活に近い環境を共同生活という形で半ば強制的に取り戻していくことが可能である。ということが挙げられます。

一人ひとり、ここ宇奈月自立塾に来た目的は違いますが、基本的にまずここから改善していくのが早道のように感じました。朝規則正しく起きることで、夜寝る時間に変化がおき早く就寝することで、間食等の時間が減り朝起きた時お腹が減る。それにより朝食が普通に食べられる。

この基本的なリズムを作ることで初めは朝起きられなかった寮生も、周りの寮生が朝起きてきているのを見て、意識に変化がおこり、徐々に起きて来られるようになり生活のリズムが安定してきて、次の課題へ取り組むことができます。

各自の課題に対する対応は面談や雑談等で、頻繁にコミュニケーションを取るよう努め、安心感をあたえ信頼してもらおう。最初は日常会話や雑談、そして相談という形になり様々なことを話せるよう雰囲気をつくっていきました。(私は色々話してもらえるようになって初めて、相手もこちらの言葉に耳を傾けてくれるようになってきているからです。)

相談の中では常にここに来た目的、課題について再確認し、現在残っている課題を聞くようにし、一人ひとり現在の課題を明確化させ、思い出させ常に課題や問題を意識して生活出来るようにしています。(数名の寮生には、現在の課題を紙に書かせ、時々目にするよう言っています。)

相談にくる寮生の中には「周りの目が気になる」と周りに合わせている人もいます。そのような人には「もっと本当の自分を出している。」ということも伝えています。

その人は少しずつですが、自分を出せるようになってきています。

寮生全員に出来ることですが、意識を変えていくということは、各個人の昔から積み上げてきた土台(ベース)を壊し新しく作りあげていくのではなく、その土台を大切に尊重し理解しその上に新しい考えを積み上げていくことだと考えています。

お互いが相手を理解、尊重し合い仲良くなることで、この場所が居心地良くなる。そうすることで、こちらを卒業し社会に復帰した後でも何かあったらいつでも気軽に遊びに来られる場所。みんなにとって安心でき落ち着け、自分を出せる楽しい場所の一つになってくれるような環境を作っていくよう今後も努力していきます。

以上のことが、現在寮生の気持ち、意識を変える為に実行していることです。

最後にここ宇奈月自立塾にこられた人たちが卒業した後、いつか遊びに来てくれ、「ここに来て良かった」と言ってもらえたら嬉しいです。

労働観「サムライ」

～サムライは滅びた…新たな価値観を～

牟田 光生

スポーツ界でマスコミが良く使いたがり、私たちもよく耳にする「サムライ」という言葉があります。

「侍」の漢字でない限り、幕末、尊王攘夷思想に被れた武士による外敵であった外国人襲撃事件が相次ぎ、NY タイムスやロンドンタイムスで国際的に初めて報道され、江戸時代の武士を「SAMURAI」と呼び浸透していきました。

武士や歴史的な事を踏まえ、わかりやすいからカタカナの「サムライ」になったのだらうと思われまます。スポーツの国際大会がある場合、「武士」と言うより「サムライ」のが国際的に通用するから使われていったのでしょう。

2年前、宇奈月自立塾タイ国遊学見学ツアーで、浴衣に下駄を履きタイに行った参加者がいた。珍しさもあり、タイで記念写真を一緒にと現地の人にせがまれたり、「サムライ」と沢山声を掛けられた。

武士も戦国前と戦国後の武士とあり、根本的に違いがあるようですが、本文とは関係ないのでここでは省略しますが…(興味のある人は私に直接お問い合わせ下さい)

江戸時代の武士は個人の為には働かない、主君もしくは仕えている家(今で言う会社)の為に働き、必要ならば命もかける。大日本帝国時代からバブル経済崩壊までの企業戦士こそ「武士」であり、精神的に武士の魂が庶民の中に根付

いていた感があると思います。

明治、大正、昭和時代の大企業では終身雇用・年功序列の賃金体系があり、また、小さな商店でも、一人前になり、長年働きその後、のれん分けという仕組みがありました。そして、新入社員教育も徹底して行われました。強烈な愛社精神が育っていくのが普通でした。バブルの時代の某栄養ドリンク剤のテレビ CM で「24 時間戦えますか？」とあり当時流行しました。ところが、バブル崩壊後、企業経営が苦しくなり合理化の名の元リストラが始まりました。さらに経済のグローバル化に伴い、終身雇用制度も崩れて行きました。

小泉内閣時に派遣社員などが、法的に整備され一般化していった。皆が好きな「サムライ」(武士) はまさにバブルと共に庶民の気持ちの中でも終わって行きました。某栄養ドリンク剤の CM ですが、今は「3・4 時間戦えますか？」に変わりました。

人気アニメ「機動戦士ガンダム」最初の作品で主人公アムロは、艦長ブライトに叱責の為、殴られた。その時の艦長ブライトのセリフ「殴られないで一人前になった奴など居るか!!」と言うシーンがあります。約 35 年前の作品です。その後主人公アムロは発奮し、快進撃を始めるのだが…。現代だと、殴られるシーンはカットされ、もし殴られても主人公は真意がわからず、ひきこもってしまったかもしれない…。これでは、話の展開はありません。

パワハラなる言葉が世を謳歌しています。

教師はいかなる場面でも体罰を禁止となり、生徒が先生を挑発することさえも、増えてきていると言われます…。暴力を肯定しているわけではありませんが、人が人として育ちにくい環境になった。例えば、学力があり、入試だけで進学して行った学生は、大学卒業までは面接試験が無いが、就職の際、面接を行わない企業はありません。学校で教わる授業以外の「課外活動をいかに自主的に行っていくか？」が、会社で働くために必要な技能なのではないでしょうか？それなしに、「若者達の就労観をどう磨いていくか？」あるいは「伝えていくか？」大きな課題が残ります。

まだ流行語ではありませんが…新しい価値観「新サムライを！」

現代の若者の気風や要素を上手く取り入れながら成果だけでなく、生きがいを探せる会社が出来ないか？新時代の流れを踏まえながら、今、私達は今後を考えていかなければなりません。若者が面白いと感じられ、希望が持てるような、人間関係のあるサークル的な要素もあり、先輩後輩という単なる関係でない互いに尊敬し合える緩やかな上下関係。自分の自己存在感が明確になり、自己有用感が持てる居場所等など、やらされる仕事ではなく、率先して面白みのある事業を興し、私達と関わった若者が面白いことが、「探せる」「作れる」そのような中間労働的会社を興していきたいと考えています。実際サポステの中で恣意的なプログラムも組んでいて思考錯誤して試しています。

今後の展開が楽しみです。

今後の予定 ★印は一般参加も可能です。但し、事前申し込み必要！

実施日・行事	内容	場所
7月20日(日)	NPO 教育研究所総会 (NPO 会員) 午後 2 時から	横浜丸山台事務所
7月26日(土)	皆で夕飯を作り、花火大会を観戦しよう！海中スターマインなど 超綺麗です！一見の価値ありです (費用 1000 円) 簡単な食事付	いかわサポステ 午後 1 時 30 分集合
★黒部市生地花火大会		

8月18日(月)～8月22日(金) ★短期夏体験キャンプ(夏季短期合宿)	楽しみながら、生活リズムを改善し、体験を行います (詳しくは別途パンフレット)	宇奈月自立塾
8月24日(日)～8月26日(火) ★親の勉強会と親睦会	ひきこもり、ニートの親御さんを対象に下記の内容をテーマに開催します。(詳しくは別途パンフレット) ① 講義と具体的な対応方法 ② 就労体験先の見学と説明会	宇奈月自立塾
8月25日(月)～11月21日(金) 厚生労働省認定 ★集中プログラムの訓練費は国負担(予定)	集中訓練プログラムとは、基本的には共同生活をし、生活リズムを整え、人間関係のスキルを磨き、社会に出るために、最低限必要なビジネスマナーの修得。そして自分にあつた仕事を、様々な労働体験を3ヵ月通して学んでいくプログラムです。	宇奈月自立塾
9月20日(土)～9月21日(日) KHJ宇奈月大会	全国親の会の勉強・各支部長会議です	宇奈月自立塾
10月1日(水)～12月29日(月) 厚生労働省認定 ★集中プログラムの訓練費は国負担(予定)	集中訓練プログラムとは、基本的には共同生活をし、生活リズムを整え、人間関係のスキルを磨き、社会に出るために、最低限必要なビジネスマナーの修得。そして自分にあつた仕事を、様々な労働体験を3ヵ月通して学んでいくプログラムです。	宇奈月自立塾
10月6日(月)～10月10日(金) 内閣府アウトリーチ研修	ニート、ひきこもり等の子ども・若者の支援を目的とした子ども・若者育成支援推進法(平成21年法律第71号)に基づき、現場の支援員を対象として、実地研修を伴う「アウトリーチ(訪問支援)研修」を実施します。	宇奈月自立塾
10月23日(木) ★ニート甲子園 秋の陣	全国規模のフリースクール・宿泊型施設のソフトボール大会です。総勢100名以上参加のビックイベントです。	宇奈月自立塾

※ 詳細につきましては表紙の連絡先までお問い合わせください。(入塾の際は面接が必要です。随時受け付けております)

※ いかわサポステの詳しいスケジュールは「サポステ通信」をごらんください。

理事長牟田武生のお知らせ!

- ・カウンセリング・アウトリーチは事前予約で横浜事務所・宇奈月で行っております。(有料)
- ・横浜事務所で行っていた勉強会は、後期は講演依頼が全国から相次ぎ時間が取れなくなりました。講演によっては一般視聴もできるものもあります。
- ・7月10日、私自身9冊目になる新刊本が発売になります。新しい本は電子書籍で発売元はインプレス社のクイックボックスです。スマートホンやお手持ちのパソコンなどで手軽に読めます。

編集後記

- ・梅雨です。集団的自衛権が閣議決定し、これから国会で審議し、立法化していきます。十分な審議と国民もこの問題しっかりと考えて行かなければならないと思います。ベトナム戦争は米国が集団的自衛権の行使という名の元に全面戦争に突入しました個人的には戦争のない平和な世界を実現したいと思います。(ム)
- ・いじめの予防の研究調査に没頭したいのですが、サポステや教研の仕事もせねばならず、人生思うように行きません。早く若手が育って欲しいのですが、大学を出ていても社会で必要な一般教養が不足、悪戦苦闘の毎日です。(久)
- ・生活困窮者の事業が27年度から本格的にはじまります。この中には将来、生活困窮者に陥る可能性の高いひきこもりに関しての自立支援事業も入っています。(編集室)